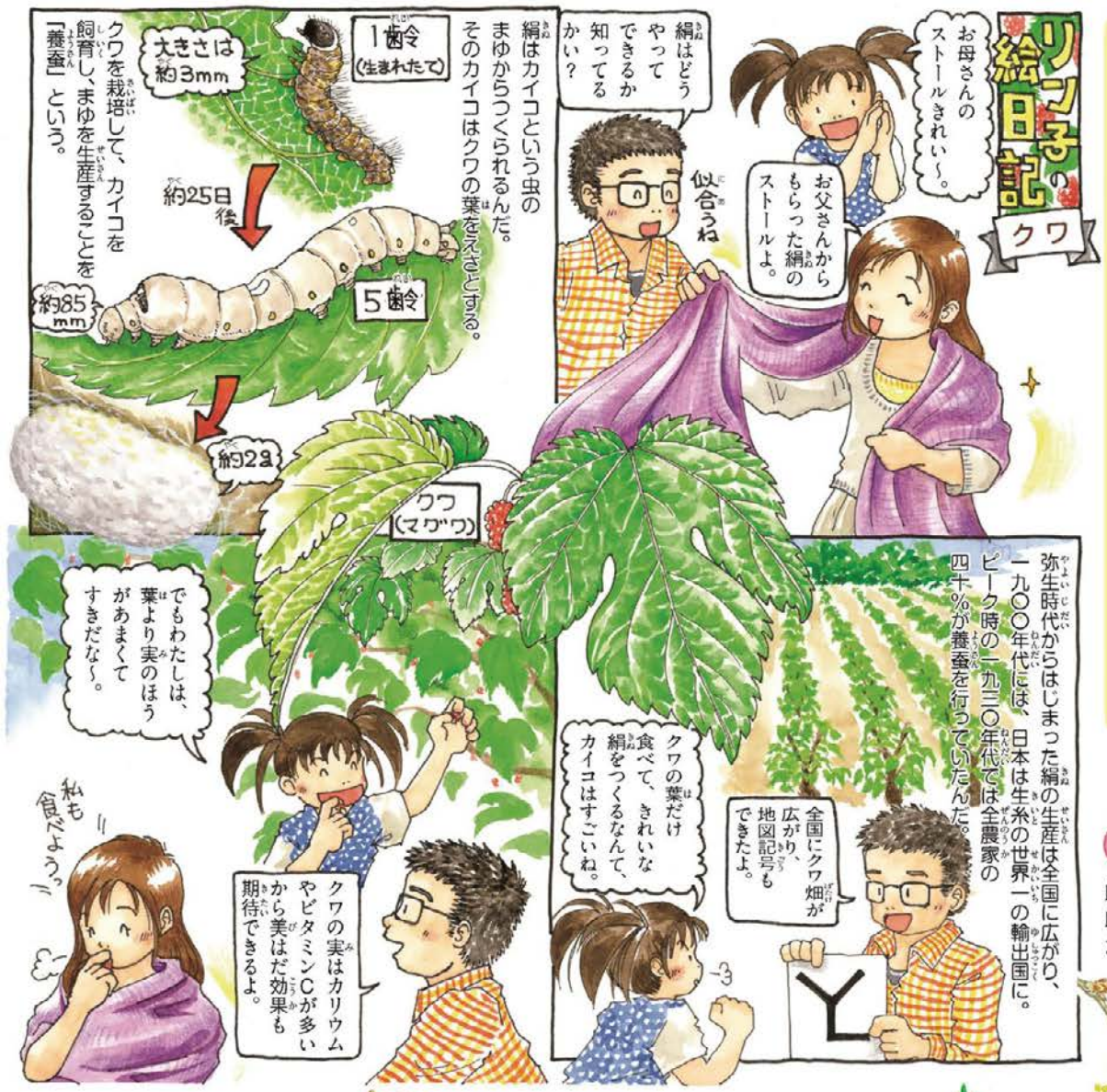
クワ

クワ科
クワ属
樹高 3～10m



春
雌雄異株のものと雌雄同株のものがある

秋 葉が黄色く色づく

冬 冬芽は丸っこい三角形

〈ヤマグワ〉

夏
実が熟して黒くなる
実にはめしべが残る
（マグワは残らない）

カシワ

ブナ科
コナラ属
樹高 10 ～ 15m

春

新しい葉が開いて
花が咲く
雌雄同株

雄花

雌花

秋

ドングリが
熟して
茶色くなる

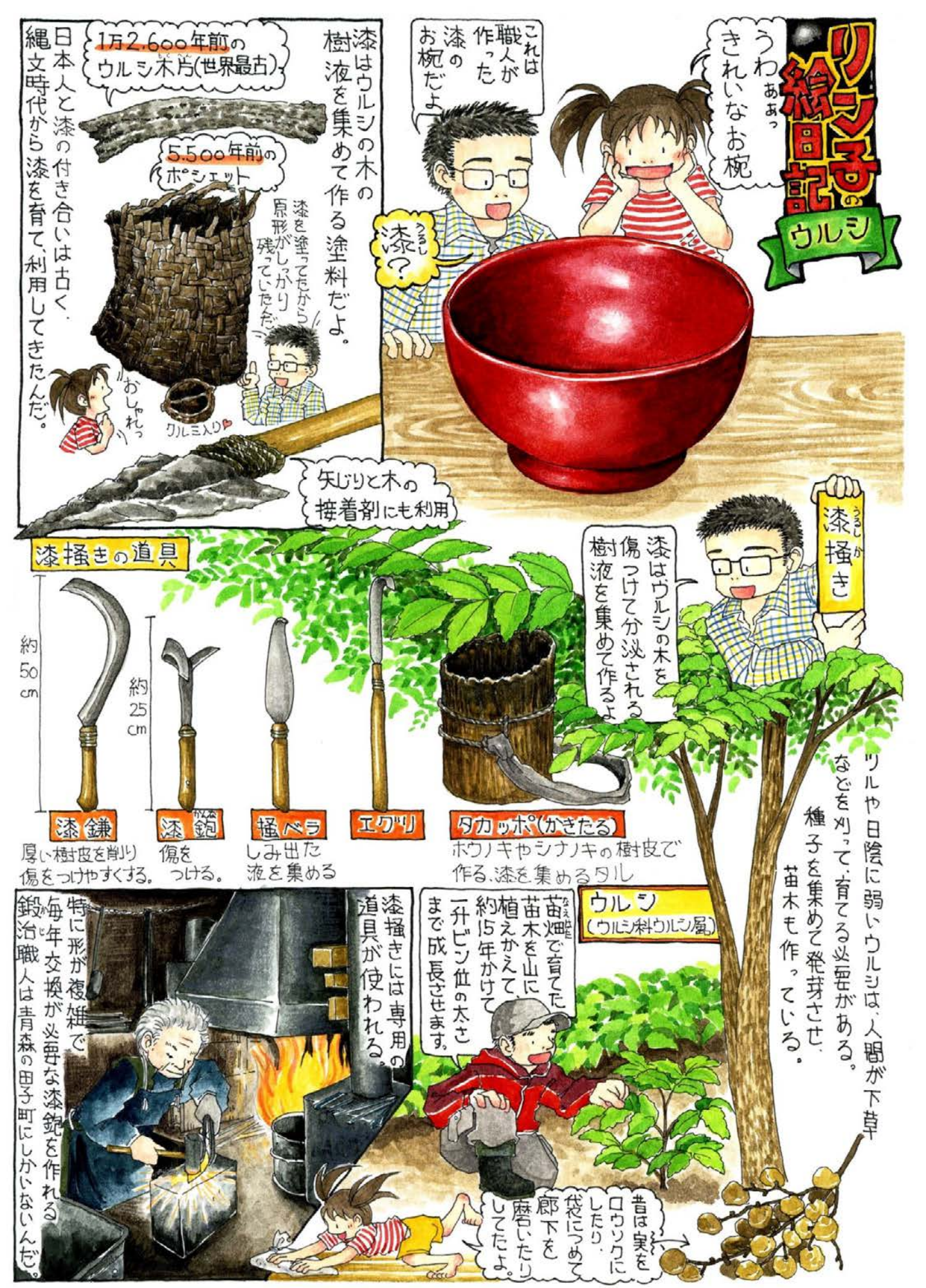
冬

冬でも枯葉が
枝に残る

冬芽

夏

大きな鋸歯の葉が
枝先に集まってつく
葉の付け根に
実（ドングリ）がなる


リンゴの絵日記
ウルシ
うわぁぁっ きれいなお椀
これは職人が作った漆のお椀だよ
漆？
漆はウルシの木の樹液を集めて作る塗料だよ。
1万2,600年前のウルシ木片(世界最古)
5,500年前のポシェット
漆を塗ってたから原形がしっかり残っていただ
日本人と漆の付き合いは古く、縄文時代から漆を育て、利用してきたんだ。
おしゃれっ
クルミ入り♥
矢じりと木の接着剤にも利用
漆掻きの道具
約50cm
約25cm
漆鎌
厚い樹皮を削り傷をつけやすくする。
漆鉋
傷をつける。
掻ベラ
しみ出た液を集める
エグリ
タカッポ(かきたる)
ホウノキやシナノキの樹皮で作る、漆を集めるタル
漆掻き
漆はウルシの木を傷つけて分泌される樹液を集めて作るよ
ツルや日陰に弱いウルシは、人間が下草などを刈って、育てる必要がある。種子を集めて発芽させ、苗木も作っている。
ウルシ
(ウルシ科ウルシ属)
苗畑で育てた苗木を山に植えかえて、約15年かけて一升ビン位の太さまで成長させます。
昔は実をロウソクにしたり、袋につめて廊下を磨いたりしてたよ。
漆掻きには専用の道具が使われる。
特に形が複雑で毎年交換が必要な漆鉋を作れる鍛冶職人は青森の田子町にしかいないんだ。

漆掻きは、6～11月に行われる。
一人の職人が一年間に掻くウルシは300～400本。
これを4グループに分けて、
1日1グループずつ作業を進める。

これを「一人山」といいます。

漆掻き職人（掻き子）
高齢化が進むが、国産漆の復興にともない、若い女性も！

①下準備
下草を刈って、風通しと日当たりを良くする。

②目立て（辺付け）（6月中旬）
傷をつけていく箇所にじるしをつける

これから傷つける木に激励の念を送る

たのんだよ

約40cm

これで採取できる漆の量が決まる重要な仕事。

1日目 → 2日目 → 3日目 → 4日目 → はじめにもどる

③辺掻き（6月下旬～9月下旬）
目立てでつけた傷の上に、前より少し長い傷を4日サイクルでつけていく。

前回つけた傷を治すため集まった樹液（漆）がしみ出してくるのを集める。
「辺漆」

20回以上繰り返す
← 21日目
← 17日目
← 13日目
← 9日目
← 5日目
← 1日目（目立て）

④裏目掻き（9月下旬～10月下旬）
辺掻きよりも長い、水平の掻傷をつけて漆をとる。
「裏目漆」

⑤止掻（10月下旬～11月中旬）
幹を一周する傷をつけて、とどめをさす
「止漆」

漆の出方は、季節や天気、木毎に変化する。
それを見極めて、無駄なく採るのは職人技だ。

木の状態を見極めて傷をつけ、

わずかにしみ出た漆を一滴ずつ掻き集める。

5ヶ月かけて一本の木からとれる漆は、たった200gなんだ

ものすごく貴重なんだね

こうして、漆を出しつくした木は、冬の前に伐採される。

でも、ウルシは根萌芽力が強いから、翌春には根から新しい芽を出して、手入れをすれば10年位で次の漆がとれるよ。

漆の精製
大切に集められた漆は、使用目的に合わせて加工されるよ。
生漆
採集されたばかりの漆（荒味漆）からゴミを除いたもの
生漆のままでも下地用として使えるけど撹拌して全体をなめらかにするんだ「ナヤシ」という作業だよ。
さらに熱を加えて水分をとばす「クロメ」を行う。
色が変わって光沢が出てきた！
精製時間を見極める職人
精製透漆
ガラス板に付けて肉持ちや透明感などを確認する。
黒漆
黒漆は、クロメの途中で鉄粉を入れて作るんだ
透漆に顔料を入れ、練り込んで様々な色漆ができる
色漆
〝きれーっ〟
こうして精製された漆は光の屈折率が高いので、深みのある光沢をもつ。
表面張力が大きいから、天然塗料の中では最も平滑に広げられるんだよ。
さらに漆は一度乾くと酸やアルカリにとても強い。
金やガラスを溶かす王水やフッ化水素もへっちゃら！
ひー
縄文時代の土器
耐熱・耐温・抗菌作用も強く、室内ではパーフェクトな保護材なんだ。
だから何千年前の器が残っているんだね！
すごいっ!!

漆の文化
日本人はこうした漆の特性を生かして豊かな文化を育んできた。
国宝 中尊寺金色堂
国宝 阿修羅像
国宝 八橋蒔絵硯箱
見た目の美しさはもちろん、木の弱点をカバーできる漆は、神社や仏閣といった建物も守り、いろどってきたよ。
全体に漆が塗られているんだ
国宝 鹿苑寺（金閣）
上塗り直後は、鏡のように模様を写す。
国宝 日光東照宮の修復
1636年に造営されて以来、数十年に一度の漆塗を繰り返すことで土台の木を守ってきた。
何よりすごいのは、漆は剥がして修理・復元ができるということだ。
何重もの塗層を見ると先人達の技と思いが伝わります。
彩色部分の下地にも漆が
江戸～昭和の修理で重ねられた漆膜の上に、新たに漆を重ねていく。
こんな裏側まで?!
次の修復まで保たせます。
神様と自分と次の世代の職人が見ているからね。
傷みがはげしい部分は、漆を剥がして塗膜を進める。
欠けた部分も漆で接着！

漆を身近に
安価な外国産の漆によって衰退してきた国産漆。しかし、平成30年から、国宝や文化財の修復には、原則100%、国産漆を使用することが決定した。
もっとウルシを植えないと。
掻き子の数も増やさなきゃ
弟子入りします！
漆産業は、守るべき伝統産業ではなく、攻めるべき産業に大転換しつつある。
数十年先の修復に向けて、若手の塗師を育てなければ！
そして漆は、国宝だけのものじゃない。
あ！お椀
漆器は木や紙に漆を塗り重ねて作る。
木地師が加工した木の器（トチノキャケヤキ等）に…
塗師が漆を塗って研いでを何度も繰り返し、漆だけで厚みを作っていく。数ヶ月作業。
手触り、口当たりがふっくらやさしく、熱々の湯を入れても、手に伝わるのはやわらかなぬくもり。
漆器は五感で感じる器。
蒔絵師により、装飾されるものも…
自分の器を育てよう。
「つやこ」と命名！
漆器は使い続けると、キズが整えられ、色ツヤが増してくるよ
みさこ

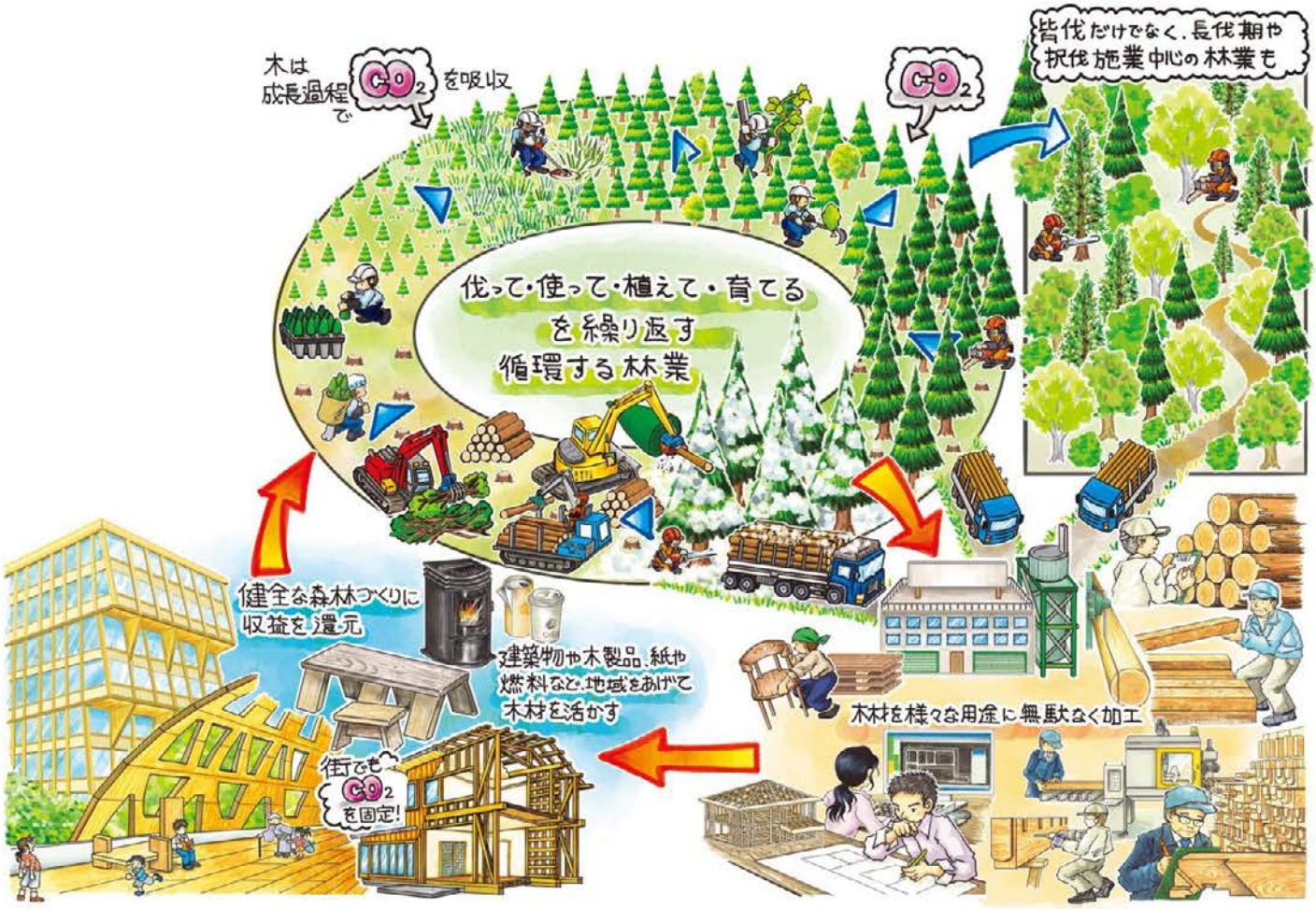
日本の森林

日本は国土面積3,780万ヘクタールのうち、約7割の2,505万ヘクタールを森林が占める、世界有数の森林国です。

この広大で豊かな森林は、貴重な野生動物が数多く生息するだけでなく、私たちの生活に必要な水や酸素の供給、土壌の保全を通しての災害防止等、人間の生活も守ってくれています。そして、2050年カーボンニュートラルの実現のための重要な役割も担っています。

今でこそ豊かな日本の森林ですが、戦後には物資の不足等の理由から過度に伐採され、荒廃した時期がありました。その際、森を復活させるために先人たちが植林し育てた木々が、50～60年経った現在、収穫の時期を迎えています。

人が育てた森林は、伐って・使って・植えて・育てるを繰り返すことで健全に維持されます。木は人が手を加えれば50～100年で再び利用できるまで成長する循環可能な資源です。私たちが正しく木を使い、また育てることが豊かな森林とその恵みを次世代に受け渡すことにつながるのです。



発行　林野庁 林野図書資料館

林野図書資料館は国立国会図書館の支部にあたり、林野行政・施策部門における専門図書館として、森林・林業・木材産業関係の資料を広く収集、保存しております。

当漫画は日本人と木の文化をより多くの方々にご紹介し、日本の森林・林業の応援団になっていただきたいという思いを込めて作成いたしました。

他の漫画シリーズも林野庁の
HPからご覧いただけます →

林野庁　林野図書資料館
〒100-8952
東京都千代田区霞が関1の2の1
電話：03-3502-8111（代表）